

実相寺古墳群

—別府の大型横穴式石室墳に関する総括調査報告書—



平成28(2016)年7月

別府市教育委員会

別府市埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集

実相寺古墳群

別府の大型横穴式石室墳に関する総括調査報告書

平成二十八(2016)年七月 別府市教育委員会





鬼ノ岩屋・実相寺古墳群（上が北）



鷹塚古墳全景（西から）



鷹塚古墳全景（左が北）



鷹塚古墳全景（右が北）



鷹塚古墳墳丘北西隅（上が北）



鷹塚古墳羨道内（玄門側から）



鷹塚古墳1トレンチ出土遺物

序 文

本書で報告します実相寺古墳群と鬼ノ岩屋古墳群は、江戸時代の文献にも記載があるなど古くから知られた古墳でした。実相寺古墳群では、昭和20年代後半から30年代前半にかけて古墳群の脇を通る九州横断道路の建設によって多くの遺跡が発見されたことにより注目を集め、実相寺古代遺跡公園が整備されるなど郷土の歴史を学ぶ場としても親しまれてきました。鬼ノ岩屋古墳群は市立上人小学校に隣接しており社会科教育の場としても活用されております。また、両古墳群ともに文化財愛護少年団が結成されており、活発な活動が行われるなど古墳を通じた文化財愛護精神の醸成も図られています。

別府市では平成28年度から郷土の歴史や伝統文化を学ぶ場として「別府学」を創設して、小中学校の9年間を通じて郷土別府を知る取り組みを始めています。郷土の歴史や伝統文化を学ぶことは、郷土への愛情を育むことにも繋がり、この実相寺古墳群や鬼ノ岩屋古墳群は、活きた教材資料としても活用できるものだと思います。

最後になりましたが、実相寺古墳群の調査を実施した別府大学文化財研究所を始め、各種関係者並びに、地元の方々に厚くお礼申し上げます。また、ご指導いただきました両古墳群の調査検討委員会の各委員をはじめ、関係各位にも重ねてお礼申し上げます。

平成28年7月

別府市教育委員会

教育長 寺岡 悌二

例 言

- 1 本書は大分県別府市大字北石垣字天神畑に所在する実相寺古墳群の総括調査報告書である。
- 2 調査は平成 19 年度から平成 23 年度にかけて別府大学文化財研究所が実施した。平成 26 年度からは国庫補助事業費等を使用して別府市教育委員会に「実相寺古墳群調査検討委員会」を設置し、調査結果の検討を行った。
- 3 本書に掲載する調査報告のうち第 3 章第 1 節 1 太郎塚古墳・次郎塚古墳及び 2 鷹塚古墳については、別府大学文化財研究所が刊行した報告書を同研究所の承諾を得て転載再編集した。
- 4 本書におけるレベル高は海拔を示す。
- 5 地中レーダー（GPR）・電気・電磁探査は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所に委託し、航空写真撮影は株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 6 本書の執筆は以下のとおりである。
 - 第 1 章 調査の経緯 秦 広之
 - 第 2 章 遺跡の位置と環境 秦 広之
 - 第 3 章 調査の成果
 - 第 1 節 1・2 別府大学文化財研究所 2013 『実相寺古墳群』より転載再編集
 - 3 秦 広之
 - 4 奈良文化財研究所
 - 第 2 節 1 別府市教育委員会 2010 『市内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書 1』より転載再編集
 - 2 別府市教育委員会 2016 『市内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書 7』より転載再編集
 - 第 3 節 関連遺跡の調査
 - 1 別府市教育委員会 2008 『春木芳元遺跡古寺地区』より転載再編集
 - 第 4 章 各論
 - 第 1 節・第 2 節 玉川剛司（別府大学文化財研究所 研究員）
 - 第 3 節 上野淳也（別府大学文学部 准教授）
 - 第 4 節 田中裕介（別府大学文学部 教授）
 - 第 5 節 桃崎祐輔（福岡大学人文学部 教授）
 - 第 5 章 総括 秦 広之
- 7 第 3 章第 1 節 1・2 における土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局等監修による『新版標準土色帖』を使用している。
- 8 本書の編集は、実相寺古墳群調査検討委員会の指導のもと、玉川剛司氏の協力を得て、秦が行った。

目次

巻頭図版

序文

例言

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯と目的	1
第2節 過去の調査と研究	1
第3節 調査の経過	3
第4節 調査の組織	5

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6

第3章 調査の成果

第1節 実相寺古墳群の調査	12
1 太郎塚古墳・次郎塚古墳の調査	12
2 鷹塚古墳の調査	38
3 天神畑古墳の調査	78
4 地中レーダー（GPR）・電気・電磁探査	88
第2節 鬼ノ岩屋古墳群の調査	102
1 鬼ノ岩屋1号墳	102
2 鬼ノ岩屋2号墳	112
第3節 関連遺跡の調査	124
1 春木芳元遺跡古寺地区	124

第4章 各論

第1節 須恵器からみる別府市内の古墳時代の様相	137
第2節 別府市内の横穴式石室	149
第3節 墳丘について	155
第4節 実相寺古墳群に所在する二基の石棺について	165
第5節 別府実相寺古墳群出土馬具の検討	173

第5章 総括

第1節 鬼ノ岩屋・実相寺古墳群の調査成果	181
第2節 豊後における鬼ノ岩屋・実相寺古墳群の位置付け	184
第3節 東九州における首長墓の動向と鬼ノ岩屋・実相寺古墳群	188
第4節 鬼ノ岩屋・実相寺古墳群の歴史的意義	189

挿図目次

第1図 『豊後国速見郡石垣原図』（部分）	1
第2図 昭和36年作成の「埋蔵文化財包蔵地調査カード」	2
第3a図 昭和51年作成の「実相寺古墳群測量図」	2
第3b図 発掘調査を伝える新聞記事	4
第3c図 別府市内の遺跡地図	7
第3d図 別府市内の古墳時代関連遺跡	9
第3e図 実相寺古墳群配置図（1/800）	10
第4図 太郎塚・次郎塚古墳トレンチ配置図（1/300）	12
第5図 太郎塚3トレンチ平面図・断面図（1/60）	13
第6図 太郎塚5トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	14
第7図 太郎塚6トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	14
第8図 太郎塚7トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	15
第9図 太郎塚7トレンチ出土遺物1（1/4）	16
第10図 太郎塚7トレンチ出土遺物2（1/4）	17
第11図 太郎塚11トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	19
第12図 太郎塚11トレンチ出土遺物（1/4）	20
第13図 次郎塚1トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	21
第14図 次郎塚1トレンチ出土遺物（1/4）	21
第15図 次郎塚2トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	22
第16図 次郎塚4トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	23
第17図 次郎塚4トレンチ出土遺物（1/4）	23
第18図 次郎塚8トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	24
第19図 次郎塚9トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	25・26
第20図 次郎塚9トレンチ出土遺物（12：1/2、その他：1/4）	27
第21a図 太郎塚・次郎塚古墳表採出土遺物（1/4）	28
第21b図 太郎塚古墳・次郎塚古墳墳丘復元図（1/300）	31
第22図 鷹塚古墳トレンチ配置図（1/300）	38
第23図 鷹塚1トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	41・42
第24図 鷹塚1トレンチ出土遺物（1/4）	43
第25図 鷹塚2トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	44
第26図 鷹塚3トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	47・48
第27図 鷹塚3トレンチ羨道部内及び天井石土層図（1/60）	50
第28図 鷹塚3トレンチ羨道部平面図・断面見通し図（1/60）	51・52
第29図 鷹塚3トレンチ出土遺物（1-14：1/4、15-17：1/2、18：1/2、19：1/1）	55
第30図 鷹塚4トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	57
第31図 鷹塚5トレンチ平面図・土層断面図（1/60・1/80）	59・60
第32図 鷹塚6トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	61
第33図 鷹塚7トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	62
第34図 鷹塚7トレンチ出土遺物（1/4）	62
第35図 鷹塚8トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	63
第36図 鷹塚9トレンチ出土遺物（1/4）	64
第37図 鷹塚9トレンチ平面図・土層断面図（1/60）	65
第38図 鷹塚6～9トレンチ配置図（1/80）	66
第39図 鷹塚古墳表採遺物（1/4）	67
第40図 鷹塚古墳墳丘復元図（1/300）	70
第41図 天神畑古墳位置図（1/800）	78
第42図 調査区位置図（1/600）	79
第43図 石室平面図・断面図（1/50）	81
第44図 石室平面図・断面図【奥壁除去後】（1/50）	82
第45図 出土遺物（1/3）	83
第46図 太郎塚古墳・次郎塚古墳 GPR探査平面図（400MHz）	91
第47図 太郎塚古墳 GPR探査平面図（270MHz）	92
第48図 次郎塚古墳 GPR探査平面図（270MHz）	93

第 49 図	次郎塚古墳 GPR 探査断面図 (270MHz)	93
第 50 図	次郎塚古墳 電気探査断面	94
第 51 図	太郎塚古墳・次郎塚古墳 電磁探査平面図	95
第 52 図	天神畑古墳 GPR 探査平面図 (400MHz)	96
第 53 図	天神畑古墳 GPR 探査断面図 1 (400MHz)	97
第 54 図	天神畑古墳 GPR 探査断面図 2 (400MHz)	98
第 55 図	鷹塚古墳 GPR 探査平面図 (400MHz)	99
第 56a 図	鷹塚古墳 GPR 探査平面図 (270MHz)	100
第 56b 図	実相寺古墳群 GPR 探査成果平面図 (1/1000)	100
第 57 図	鬼ノ岩屋 1 号墳調査区位置図 (1/300)	102
第 58 図	第 1 調査区平面図・土層断面図 (1/60)	103
第 59 図	第 3 調査区平面図・土層断面図 (1/60)	104
第 60 図	第 5 調査区平面図・土層断面図 (1/60)	105
第 61 図	出土遺物 (1/3)	106
第 62 図	鬼ノ岩屋 1 号墳復元図 (1/300)	107
第 63 図	鬼ノ岩屋 1 号墳石室実測図【現況図】 (1/100)	109
第 64 図	鬼ノ岩屋 1 号墳石室実測図【石室形復元】 (1/100)	110
第 65 図	鬼ノ岩屋古墳位置図 (1/1000)	112
第 66 図	第 1 トレンチ平面図・土層断面図 (1/50)	113
第 67 図	第 2 トレンチ平面図・土層断面図 (1/50)	114
第 68 図	第 3 トレンチ平面図・土層断面図 (1/50)	115
第 69 図	鬼ノ岩屋 2 号墳墳丘復元図想定図 (1/300)	116
第 70 図	鬼ノ岩屋 2 号墳石室実測図 (1/100)	119
第 71 図	塚原出土遺物実測図 (1/4)	121
第 72 図	調査地域図	124
第 73 図	調査区配置図 (1/300)	125
第 74 図	第 1 調査区遺構配置図 (1/100)	126
第 75 図	1 号石棺 (1/40)	127
第 76 図	1 号石棺周辺部出土遺物 (1/4)	127
第 77 図	1 号石棺内出土遺物 (1・2 : 1/4、3 : 1/2、4・5 : 1/1)	129
第 78 図	第 2 調査区遺構配置図 (1/100)	130
第 79 図	2 号石棺 (1/40)	131
第 80 図	第 2 調査区出土遺物 (1/4)	131
第 81 図	春木芳元遺跡出土須恵器編年図 (1/6)	138
第 82 図	太郎塚古墳・次郎塚古墳出土須恵器 (25 : 1/8、その他 : 1/6)	139
第 83 図	太郎塚古墳・次郎塚古墳出土須恵器編年図 (25 : 1/8、その他 : 1/6)	140
第 84 図	鷹塚古墳出土須恵器 (26 : 1/8、その他 : 1/6)	141
第 85 図	鷹塚古墳出土須恵器編年図 (26 : 1/8、その他 : 1/6)	142
第 86 図	天神畑 1 号墳出土須恵器 (1/6)	143
第 87 図	天神畑 1 号墳出土須恵器編年図 (1/6)	144
第 88 図	北石垣遺跡出土須恵器等編年図 (1/6)	146
第 89 図	別府市内の横穴式石室実測図 (1/200)	150
第 90 図	別府湾沿岸・阿蘇地域の横穴式石室編年図 (1/300)	152
第 91 図	筑後川上流域・豊前地域の横穴式石室編年図 (1/300)	153
第 92 図	鷹塚古墳墳丘縦横断面図 (1/300)	157・158
第 93 図	方墳の平面規模散布図	163
第 94 図	実相寺 1 号石棺 (1/20)	167
第 95 図	実相寺 2 号石棺 (1/20)	169
第 96 図	実相寺古墳群次郎塚出土馬具トレース図・復元想定図	179
第 97 図	鷹塚古墳 (1/500)	181
第 98 図	太郎塚古墳・次郎塚古墳 (1/500)	182
第 99 図	天神畑 1 号墳 (1/100)	183
第 100 図	鬼ノ岩屋古墳群 (1/1000)	183
第 101 図	豊後及び豊前東部における首長墓の変遷	185

第 102 図	豊後における玄室規模の比較	186・187
第 103 図	玄室規模散布図	187
第 104 図	関連遺跡	189
第 105 図	鬼ノ岩屋・実相寺古墳群	189
第 106 図	駅路図	190

表目次

表 1	太郎塚・次郎塚古墳出土土器観察表	29
表 2	太郎塚・次郎塚古墳出土馬具観察表	29
表 3	鷹塚古墳出土土器観察表	68
表 4	鷹塚古墳出土馬具観察表	68
表 5	鷹塚古墳出土装身具観察表①	68
表 6	鷹塚古墳出土装身具観察表②	68
表 7	春木芳元遺跡古寺地区遺物観察表	133
表 8	別府市内における古墳・集落別の須恵器型式一覧	147
表 9	別府市周辺主要横穴式石室の規模比較一覧	149
表 10	本稿取り扱い方墳一覧	159
表 11	玄室規模の比較	187

写真目次

巻頭図版 1	鬼ノ岩屋・実相寺古墳群	
巻頭図版 2	鷹塚古墳全景	
巻頭図版 3	鷹塚古墳全景・鷹塚古墳墳丘北西隅	
巻頭図版 4	鷹塚古墳羨道内・鷹塚古墳 1 トレンチ出土遺物	
写真図版 1	太郎塚古墳 3 トレンチ周溝検出状況ほか	32
写真図版 2	太郎塚古墳 10 トレンチ南側土層堆積状況ほか	33
写真図版 3	次郎塚古墳 8 トレンチ検出状況ほか	34
写真図版 4	太郎塚古墳・次郎塚古墳出土遺物	35
写真図版 5	次郎塚古墳出土遺物	36
写真図版 6	鷹塚古墳 1 トレンチ全景ほか	71
写真図版 7	鷹塚古墳 3 トレンチ羨道内玄門付近ほか	72
写真図版 8	鷹塚古墳 5 トレンチ全景ほか	73
写真図版 9	鷹塚古墳 1・9 トレンチ完掘状況	74
写真図版 10	鷹塚古墳出土遺物	75
写真図版 11	鷹塚古墳出土遺物	76
写真図版 12	天神畑 1 号墳石室全景ほか	85
写真図版 13	天神畑 1 号墳調査前ほか	86
写真図版 14	鬼ノ岩屋 1 号墳第 1 調査区ほか	108
写真図版 15	鬼ノ岩屋 2 号墳第 1 トレンチ全景ほか	117
写真図版 16	鬼ノ岩屋 2 号墳第 2 トレンチ平坦面葺石検出状況	118
写真図版 17	塚原出土遺物	122
写真図版 18	春木芳元遺跡古寺地区第 1 調査区全景ほか	134
写真図版 19	春木芳元遺跡古寺地区第 2 調査区全景ほか	135
写真図版 20	春木芳元遺跡古寺地区出土遺物	136
写真 1	太郎塚古墳（左）・次郎塚古墳（右）	11
写真 2	鷹塚古墳	37
写真 3	天神畑古墳	77
写真 4	地中レーダー探査	87
写真 5	鬼ノ岩屋古墳群全景	101
写真 6	鬼ノ岩屋 2 号墳	111
写真 7	春木芳元 1 号石棺	123
写真 8	実相寺山露頭	165
写真 9	実相寺 1 号石棺	167
写真 10	実相寺 2 号石棺	169
写真 11	実相寺古墳群次郎塚古墳出土馬具	180

第1章 調査の経緯

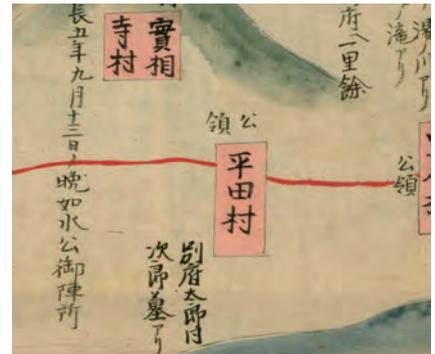
第1節 調査に至る経緯と目的

実相寺古墳群は大分県別府市大字北石垣字天神畑に所在する古墳群で、鷹塚古墳・太郎塚古墳・次郎塚古墳・天神畑古墳から構成されている。平成19年度から23年度にかけて行われた別府大学文化財研究所による発掘調査の結果、太郎塚古墳・次郎塚古墳の墳形及び規模が判明し、鷹塚古墳の墳形が方墳であると判明するなどの調査成果を受けて、平成25年3月に鷹塚古墳・太郎塚古墳・次郎塚古墳が「実相寺古墳群」として大分県指定史跡に指定された。

別府大学文化財研究所による調査成果を受けて、別府市教育委員会は実相寺古墳群の本質的価値について検討し古墳群の保護を図ることを目的に平成26年度に実相寺古墳群調査検討委員会を設置して、調査成果の検討及び昭和32年に国史跡に指定されている鬼ノ岩屋古墳も含めて別府市に所在する古墳群の位置付けについて検討を行った。

第2節 過去の調査と研究

実相寺古墳群を構成する古墳群は、幸若舞でも演じられた『百合若大臣』に擬えて、古くから知られる存在であった。元禄7年(1694)に石垣原合戦の取材で別府の地を訪れた福岡藩の儒学者貝原益軒が絵師に描かせた『豊後国速見郡石垣原図』にも「別府太郎同次郎墓アリ」と記されており、少なくとも江戸時代の前期には古墳の存在が知られていた事が判る。18世紀末に編纂された『豊後国誌』には「荒墓 三所。並在石垣荘石垣原。一曰別府太郎。一曰別府次郎。一曰緑丸。緑丸蓋鷹名。」と記されている。



第1図『豊後国速見郡石垣原図』(部分)

昭和25年(1950)に制定された別府国際観光温泉文化都市建設法の最初の事業として昭和26年(1951)から着工した国際観光道路(現在の「九州横断道路」)は、別府国際観光港を起点に鉄輪から湯布院へと通じるルートであるが、その途中にある実相寺古墳群周辺では、昭和20年代末から昭和30年代初頭にかけて工事が行われており、別府女子大学(現在の別府大学)の賀川光夫氏らによって緊急の発掘調査が行われ、縄文時代後期の遺物や弥生時代の竪穴住居などが発見されている(『別府市実相寺春木遺跡概要』『別府市国際観光道路に於ける先史時代遺跡の調査』)。

昭和33年(1953)には馬具(県指定名称:唐草文透彫鏡板)が次郎塚古墳付近から出土している。この馬具については平成15年刊行の『別府市誌』では「太郎塚古墳出土」とされている資料であるが、隣接して存在する太郎塚古墳・次郎塚古墳については呼称の混乱が認められ、昭和29年(1954)報告(『別府市実相寺春木遺跡概要』)では現在と同じ北側の古墳を「次郎塚古墳」としているが、昭和30年代に入り北側の古墳が「太郎塚古墳」と呼ばれるようになる一方、昭和35年(1960)度から昭和37年(1962)度にかけて全国的に埋蔵文化財包蔵地の分布調査が行われた際には北側の古墳を「次郎太郎塚1号墳」、南側の古墳を「次郎太郎塚2号墳」と遺跡

名が付与され、昭和 50 年（1975）に作成された改定版にも踏襲されている。昭和 30 年代から同 60 年代にかけて、現在「次郎塚古墳」呼ばれる北側の古墳は、「次郎太郎塚 1 号」もしくは「太郎塚古墳」と呼称されていた。なお、馬具発見直後の昭和 35 年に作成された「埋蔵文化財包蔵地カード」には、馬具の出土位置が記され、出土位置は現在「次郎塚古墳」と呼称している北側の古墳「次郎太郎塚一号墳」の南東側隣接地とされており、この馬具が現在の「次郎塚古墳」から出土していることが判る。



第 2 図 昭和 36 年作成の「埋蔵文化財包蔵地調査カード」（左：表面、右：裏面）

現在は、北側の古墳を「次郎塚古墳」、南側の古墳を「太郎塚古墳」と呼称しており、これは大分県教育委員会が平成 20 年（2008）に刊行した『大分県遺跡地図』に準じており、本報告でもこれを踏襲する。

昭和 51 年（1976）には別府市教育委員会が別府大学に委託し、実相寺古墳群の測量調査が行われている。この際作成された測量図には測量調査を担当した吉留秀敏氏により、当時まだ発見されていなかった天神畑古墳の位置に石室の存在が指摘されているほか石棺の出土位置についての重要な情報が記載されている。なお天神畑古墳は、平成 2 年に開発に伴う調査が行われ、発掘調査によって古墳が確認された。



第 3a 図 昭和 51 年作成の「実相寺古墳群測量図」

第3節 調査の経過

(1) 調査の方法

実相寺古墳群の調査については、平成19年(2007)度から平成23年(2011)度にかけて別府大学文化財研究所により範囲確認調査が進められ古墳群の重要性が認識されることにより、平成26年(2014)度から別府市教育委員会に「実相寺古墳群調査検討委員会」を設置して、別府大学文化財研究所による調査結果の検討及び古墳群の価値について検討を行った。

(2) 調査の経過

太郎塚古墳・次郎塚古墳1次調査(平成19年(2007)度)

別府大学文化財研究所により平成20年(2008)2月1日から2月22日まで、太郎塚古墳・次郎塚古墳1次調査として、各古墳に4本のトレンチ、計8トレンチを設定して調査が行われた。太郎塚古墳の7トレンチからは周溝が確認され、周溝底部から多数の須恵器が出土した。次郎塚古墳では1・4トレンチにおいて周溝が確認されている。

太郎塚古墳・次郎塚古墳2次調査(平成20年(2008)度～平成21年(2009)度)

別府大学文化財研究所により平成20年12月13日から平成21年4月30日まで、太郎塚古墳・次郎塚古墳2次調査として、周溝の依存状況及び墳丘の残存状況を確認するため9～11トレンチを設定して調査が行われた。9・11トレンチで周溝を確認したほか、9トレンチでは多数の須恵器が出土した。また、墳丘の測量調査も併せて行われた。

鷹塚古墳1次調査(平成20年(2008)度～平成21年(2009)度)

別府大学文化財研究所により平成21年2月26日から4月30日まで、鷹塚古墳1次調査として3本のトレンチを設定して調査が行われた。1トレンチで墳丘盛土と考えられる土層を確認し、3トレンチでは、前庭部の側面と考えられる石材が確認されている。

鷹塚古墳2次調査(平成21年(2009)度～平成22年(2010)度)

別府大学文化財研究所により平成21年8月1日から平成22年6月30日まで、鷹塚古墳2次調査が実施され、古墳の時期・墳形・規模に関する課題を検討するため6本のトレンチを設定して調査が行われた。5・6・7・8トレンチで1段目の石列が確認され、墳形が方墳であることが判明した。また、1トレンチからはTK43～TK209型式期の遺物が出土した。

鷹塚古墳3次調査(平成22年(2010)度～平成23年(2011)度)

別府大学文化財研究所により行われた鷹塚古墳3次調査では、開口部及び羨道部内の依存状況の確認を目的とした調査が行われている。調査の結果、羨道部は、幅2.5m・現存長6.5mという県内最大の羨道を持つ巨石墳であることが確認された。また、スキヤニングレーザーによる3次元測量も実施した。

別府市教育委員会は、平成 24 年（2012）3 月 8 日に「市指定史跡実相寺古墳群発掘調査検討会」を開催し、小田富士雄福岡大学名誉教授、後藤宗俊別府大学名誉教授を交えて調査結果の報告検討を行った。

平成 26 年（2014）度

別府市教育委員会は、平成 27 年（2015）1 月 26 日から 1 月 30 日にかけて、実相寺古墳群の地中レーダー（GPR）・電磁・電気探査を奈良文化財研究所に委託し実施した。平成 27 年 3 月 30 日に「実相寺古墳群調査検討委員会」を開催して別府大学文化財研究所により行われた調査結果の報告検討を行った。

平成 27 年（2015）度

別府市教育委員会は、平成 27 年 11 月 19 日に実相寺古墳群調査検討委員会を開催し、出土遺物の検討や古墳群の位置付けについて検討を行った。12 月 18 日には文化庁記念物課主任調査官の現地視察が行われ古墳群に関する協議を行った。

平成 28 年（2016）度

別府市教育委員会は、平成 28 年 6 月 19 日に実相寺古墳群調査検討委員会を開催し、総括報告書について検討を行った。

平成 22 年 2 月 22 日付大分合同新聞



平成 23 年 3 月 2 日付大分合同新聞



第 3b 図 発掘調査を伝える新聞記事

第4節 調査の組織

調査主体 別府市教育委員会
調査責任者 寺岡悌二（別府市教育委員会 教育長）

実相寺古墳群調査検討委員会

委員長 田中裕介（別府大学文学部 教授）
副委員長 福永伸哉（大阪大学大学院 教授）
桃崎祐輔（福岡大学人文学部 教授）
重藤輝行（佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授）
杉井 健（熊本大学文学部 准教授）
上野淳也（別府大学文学部 准教授）
湊 博秋（別府市教育庁 教育参事）

調査事務 永野康洋（別府市教育庁生涯学習課 課長）
本田明彦（別府市教育庁生涯学習課 課長）
矢野義知（別府市教育庁生涯学習課 課長補佐兼文化財係長）
河野秀徳（別府市教育庁生涯学習課 課長補佐兼文化財係長）
中西郁夫（別府市教育庁生涯学習課 課長補佐兼文化財係長）
柏木正義（別府市教育庁生涯学習課 課長補佐兼文化財係長）
荒金一明（別府市教育庁生涯学習課文化財係 主査）
釘宮誠治（別府市教育庁生涯学習課文化財係 主査）
塚崎里沙（別府市教育庁生涯学習課文化財係 主事）
小間加奈子（別府市教育庁生涯学習課文化財係 非常勤職員）
調査担当 秦 広之（別府市教育庁生涯学習課文化財係 主任）

調査指導 小田富士雄（福岡大学 名誉教授）
後藤宗俊（別府大学 名誉教授）
禰冨田佳男（文化庁文化財部記念物課 主任文化財調査官）
林 正憲（文化庁文化財部記念物課 文化財調査官 調査指導当時）
後藤晃一（大分県教育庁文化課副 主幹 調査指導当時）
横澤 慈（大分県教育庁文化課 主任 調査指導当時）
越智淳平（大分県教育庁文化課 主任）

調査協力 文化庁文化財部記念物課 大分県教育庁文化課
玉川剛司（別府大学文化財研究所 研究員）

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

実相寺古墳群が所在する別府市は、九州の北東部、瀬戸内海に面した大分県の東海岸のほぼ中央に位置し、北を日出町・宇佐市、西を由布市、南を大分市と接する。

市内には古くから「別府八湯」と呼ばれる温泉群が点在し、2千2百を超える源泉から湧出する温泉は、毎分8万3千リットルにも及び、この豊富な天然資源を浴用として利用するほかに、湯の花製造などの伝統産業や、地獄などの観光資源としても利用し独特な温泉文化を形成している。平成24年（2012）9月には、温泉を利用した独特な生活・生業の在り方が評価を受け鉄輪・明礬地区が国の重要文化的景観に選定された。

実相寺古墳群は、鶴見連山の開析碎屑物が土石流や泥流となって形成された別府扇状地の北側に位置し、土中には「別府石」と呼ばれる大小の角閃石安山岩が厚く堆積している。古墳は標高50～60m前後の扇状地上に位置しているが、鶴見連山に降り注ぐ雨水は別府扇状地の地下に染み込み、一部は地熱で温められたのちに温泉として利用され、一部は古墳の位置する標高付近で湧水として地上に現れる。現在は宅地開発等により湧水を見ることは出来なくなったが、昭和30年代頃までは湧水を利用した水田と農業集落が点在する景観が広がっていた。

周辺を流れる河川は、古墳群の北側に鶴見連山の麓に端を発する春木川及び明礬・鉄輪などの地獄地帯を抜ける平田川が流れている。

第2節 歴史的環境

別府市内では旧石器時代から近世にかけての遺跡が存在する。旧石器時代では、丘陵上にある羽室遺跡でナイフ型石器が出土している。

縄文時代の遺跡は、早期後半の押型文期に遺跡が増加し、十文字原第1遺跡では集石遺構が調査されている。野田遺跡では、姫島産の黒曜石が出土するなど各地との交流の痕跡も認められる。後期の羽室遺跡では鐘崎式の竪穴住居跡が1棟確認されている。後期中葉になると春木川沿いの春木芳元遺跡で西平式土器が出土し、扇状地での活動も認められるようになる。

弥生時代になると扇状地を見下ろす高台にある羽室遺跡では中期初頭段階の高地性集落が確認されている。遺跡数が増加するのは後期から終末期にかけての時期で、石垣地区などの扇状地で遺跡が多く認められるようになる。春木芳元遺跡では合わせ口甕棺や集落跡が確認されているほか、別府大学のある円通寺遺跡では多数の竪穴住居跡とともに小型仿製鏡が出土するなど拠点的な集落が現れる。

円通寺遺跡では、弥生時代後期後葉～終末期にかけての集落が確認され小型仿製鏡が出土した。弥生時代後期から終末期にかけて活発な活動の痕跡が確認できたこれらの遺跡は、古墳時代になると規模を縮小し、北石垣遺跡などで断片的に古墳時代の遺跡の存在が確認されるものの集落の動向を把握することは困難となる。以後、古墳時代を通じて集落遺跡の様相は不明確な状態となる。



- 1 温水遺跡 2 ふいが城遺跡 3 扇山遺跡 4 湯の森遺跡 5 北鉄輪遺跡 6 野田遺跡
 7 火男火売神社地遺跡 8 宮園遺跡 9 竈門氏墓地遺跡 10 羽室遺跡 11 貴船城遺跡
 12 鬼ノ岩屋1号墳 13 鬼ノ岩屋2号墳 14 円通寺遺跡 15 北石垣遺跡 16 春木芳元遺跡
 17 次郎塚古墳 18 太郎塚古墳 19 鷹塚古墳 20 末行遺跡 21 四郎丸遺跡
 22 南石垣遺跡 23 吉祥寺跡 24 田ノ湯石棺墓群 25 朝見神社石棺墓群 26 志高湖岸遺跡
 27 小杉遺跡 28 浜脇横穴墓群 29 大友浜脇館跡 30 立石城跡 31 鬼ノ岩屋古墳群
 32 元林遺跡 33 実相寺古墳群

第3c図 別府市内の遺跡地図



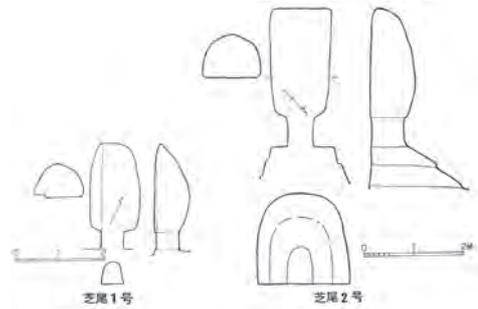
別府地区の古墳時代遺跡



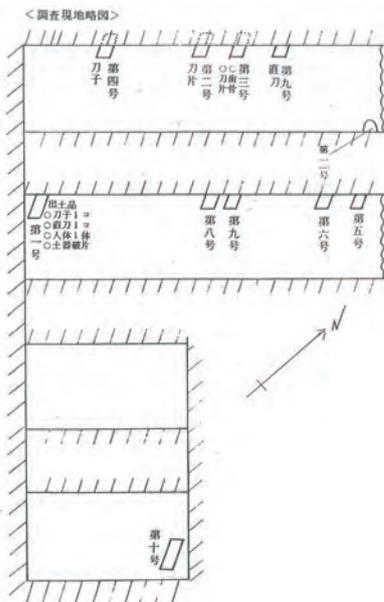
枇杷の木（朝見神社石棺墓群）出土短甲
（京都大学文学部 1968）



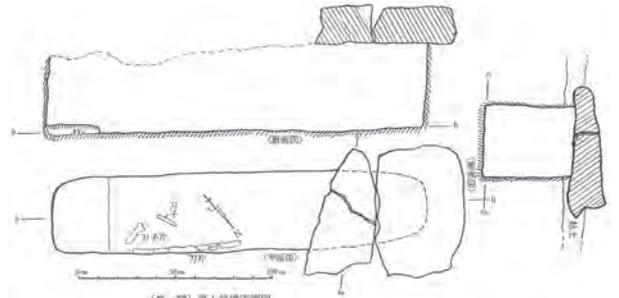
朝見神社石棺墓群



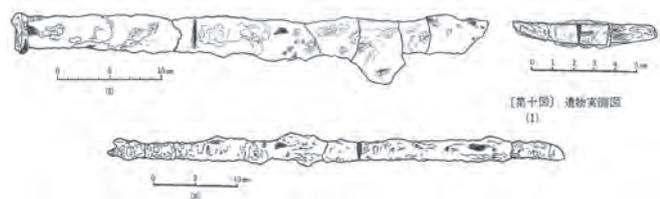
浜脇横穴墓群（別府市役所 1985）



田ノ湯石棺墓群遺構配置図
（後藤 1969）



田ノ湯石棺墓群第1号墳
（後藤 1969）



田ノ湯石棺墓群出土遺物
（後藤 1969）

第3d 図 別府市内の古墳時代関連遺跡

集落遺跡の調査事例の少ない古墳時代の当地域であるが、これとは対照的に古墳時代になると墳墓や石棺墓などの遺跡が多く確認されるようになる。古墳時代前期の墓域は確認されていないが、中期になると別府南部の朝見神社石棺墓群において複数の箱式石棺墓が確認されている。昭和8年(1933)に刊行された『別府市誌』によると、朝見枇杷の木において大正15年(1926)に行われた水道工事の際に、4～5基の箱式石棺墓が出土し「何れも厚さ三寸平均の平たい石で、長方形に組合せ、棺の内部は朱で塗りつめている。右は同一墳丘内に石棺が二個並列してゐるものである」と記載されている(鳥居1933)。また、京都大学総合博物館には別府市朝見枇杷の木出土の鉄刀破片1個・短甲破片1個・頸甲・肩甲各破片8個・土師器破片8が保管されており(京都大学文学部1968)、短甲の型式は三角板革綴となり中期前葉に位置づけられている(西嶋2014)。

田ノ湯石棺墓群では、昭和41年(1966)に石蓋土杭墓が開発工事中に発見され、10基の石蓋土杭墓が調査されているが、すでに壊されたものも含めると20数基が存在していたと報告されている(後藤1969)。

春木芳元遺跡古寺地区において、箱式石棺が発掘調査され棺内から鉄剣・大刀・鉄斧が出土し、付近からは5世紀後半～末の須恵器が出土した。墳丘は確認されていないが、石棺を取り囲むように隅丸方形の周溝が確認されており、本来墳丘を伴っていた可能性も指摘されている(下森2007)。

後期後葉になると春木川を挟んで鬼ノ岩屋古墳群と実相寺古墳群が築造される。TK43型式期には、鬼ノ岩屋2号墳と太郎塚古墳・次郎塚古墳が造られ、TK209型式期になると鬼ノ岩屋1号墳と鷹塚古墳が造られる。実相寺古墳群では鷹塚古墳の次に天神畑古墳が造られるなど、後期後葉から終末期にかけて古墳が連続的に築造されるようになる。

別府南部の浜脇・朝見の丘陵一帯に浜脇横穴墓群が構築される。丘陵沿いに複数の群をなし、50基前後の横穴墓が確認されているが、本格的な発掘調査は行われていない。金毘羅山横穴墓から出土したと伝えられる遺物には、鉄製轡鏡板・金環・銀環・勾玉・管玉・切子玉・ガラス製小玉・鉄鏃・鉄釘・須恵器破片・土錘などが出土したとされ(別府市役所1985)、古墳時代後期から終末期にかけて構築されたものと考えられる。

第1章・第2章 引用・参考文献

- 梅原末治 1924「豊後國速見郡北石垣村の石室古墳」『考古学雑誌第14号第4号』考古學會
鳥居龍蔵 1933「第三節 原始時代」『別府市誌』別府市教育會
別府女子大学上代文化研究所編 1954頃『別府市実相寺春木遺跡概要』別府市立図書館
賀川光夫 1956頃『別府市國際觀光道路開掘に於ける先史時代遺跡の調査』別府市教育委員會
賀川光夫 1957「原始・古代の別府」『大分縣地方史 第11・12号』大分県地方史研究会
京都大学文学部 1968『京都大学文学部博物館考古学資料目録 第2部日本歴史時代』京都大学
後藤重己 1969『別府市域における集落景観の変遷資料 - 南明荘古墳調査報告 - 』南明荘古墳調査団
坂本嘉弘 1971「別府市朝見地区に於ける組合石棺出土例報告」『ちかたび13』別府大学考古学専攻生
大分県教育委員會編 1983『羽室遺跡発掘調査概報』大分県教育員會
別府市役所編 1985『別府市誌』別府市役所
別府市 2003『別府市誌』別府市
下森弘之編 2007『春木芳元遺跡古寺地区』別府市教育委員會
別府市教育委員會編 2009『市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1』別府市教育委員會
清水宗昭 2012『べっぷの文化財 No.42 - 別府市の古墳文化 - 』別府市教育委員會・別府市文化財保護審議會
別府市教育委員會編 2016『市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7』別府市教育委員會
西嶋剛広 2014「甲冑から見た九州と倭王権との地域間交流」『古墳時代の地域間交流2』
第17回九州前方後円墳研究会大分大会 九州前方後円墳研究会



第 3e 図 実相寺古墳群配置図 (1/800)